

first-hand

調査団体名	: first-hand	団体代表者名	: 松島周平
設立年	: 2006年	対応してくれた人の名前	: 松島周平、松島知美
団体URL	: http://first-hand.jp/	調査員	: 丹羽健司・浜口美穂・吉橋久美子
活動拠点	: 豊田市御所貝津町尺丈4-5(カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」は豊田市稲武町タヒラ8-1)	レポート作成者	: 吉橋久美子
取材日	: 2015年12月18日		

活動内容

1. 国産の無垢材を使った家具や暮らしの道具の制作。
2. カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」
3. 豊田市産の材にこだわり、木の伐採から流通までを手掛ける家具ブランド「hitotoki」
(first-hand単独ではなく、「人と木をつなげるプロジェクト」として、8名のメンバーで実施)

コンセプト

やさしさと家族

会のモットー(何を大切にしているか)

「やさしい生活」。

家具工房やカフェ、暮らしの道具を扱うショップを通して、自分たちの考える持続可能なライフスタイルを発信すること。社会の最小単位である家族を大切にしたい。日々の営みの中で、“生きること”に不可欠な食や住まいについて、無理なく楽しみながら出来ることを提案していきたい。

設立から現在に至るまで変化したこと

- 2006年 周平さんが「first-hand」を立ち上げる。
- 2008年 結婚して知美さんが加わり、夫婦二人の家具工房となる。
- 2010年 稲武に引っ越し。
- 2015年 仲間と家具ブランド「hitotoki」を立ち上げ、木を伐るところから流通までを扱うプロジェクトを始動。
- 2015年 カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」をオープン。5年後ぐらいと思っていたが早く実現した。

連携している団体・専門家・自治体など

カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」は一般財団法人古橋会の協力を得てオープンした。
hitotokiは建築士や製材業者らの仲間と進めている。hitotokiの活動には豊田市森林課が協力を申し出ている。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

①針葉樹の利用促進

2008年から安心して使えるものをお届けしたいと思い、家具製作に使用する木材は”国産無垢材“に限定した。
2010年稲武に移住を機に、身近な木(スギやヒノキ)の利用を試みている。当初は材料調達の面で難しさもあった。

②カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」

地元の木材や食材など地域資源を利用し、地域内外へ発信することで、地域がより活性し、山が良くなっていけば、という思いがあった。店の開業にあたっては、古橋会に力強い賛同と協力を得て、内装には地元の山の木を使うことが出来た。

③「人と木をつなげるプロジェクト」の活動

2015年、豊田市の森を知り、木に親しむ、そして流通をデザインする「人と木をつなげるプロジェクト」を仲間と立ち上げた。「hitotoki」という家具ブランドを立ち上げ、第1号となる杉のスツールを制作。2015年東京ビックサイトの「国際家具見本市」内での企画展にデザイナーとして選ばれ出展。会の活動は、同年「ウッドデザイン賞」を受賞した。

現在直面している課題

家具ブランド「hitotoki」は、豊田市内で育った木を伐り使っているが、将来的に製品を多く流通させるためには、分業が必要であると思う。豊田市内内の業者だけでは難しい面も出てくる可能性もある。また、販売は「ヒトキ-人と木-」を中心に始めるが、広く流通させるためには、販売店の開拓なども必要であると思う。

今後やってみたいこと

①針葉樹を使った製品作り

針葉樹を使った家具作りは始まったばかりだ。今後針葉樹の美しさや良さを国内に限らず、海外も視野に入れて商品展開をしていきたい。

②「hitotoki」の家作り

「人と木をつなげるプロジェクト」では、林業従事者、建築士、デザイナー、家具職人など様々な職種の人が所属している。豊田の木材を使って、“顔の見える”新しい家づくりの提案をしてみたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

そういったことを実現する為の、積極的にリサーチなどはしたりしない。いつ実現するかわからないが、その時期が来たらできる、というスタンス。すべてにおいて、無理せず流れの中でやっている。それが僕らに本当に必要になったときに情報や人脈などを得られると考えている。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

豊田産とおっしゃっておられるが、「豊田」は行政区切りではないですよね。その辺はどう捉えていますか？

<答え>

「豊田発」で、材料としては「矢作川流域で」というイメージでやっていくというのがいいかもしれない。

チームオリジナルの質問

<質問内容>

「hitotoki」で開発したスツールはどんなものですか？

<答え>

杉は“軽さ”も特徴の一つだが、柾目が大変美しく、他の木にはないと思った。そこで今回は、杉の柾目を活かしたデザインとした。木材の手配については、プロジェクトメンバーのおかげで思うものが手に入った。自動車の町を思わせるような金属フレームを入れたもの、板立てのもの、脚に枠組みを利用したものと3種類を作り、この中から1種類を製品化する予定だ。杉は広葉樹に比べて加工が難しい面もあり、制作には苦労した所もあった。

その他、伝えたいこと

2011年3月の東日本大震災があって、何のためにものづくりをしているんだろう...と考えた。自分たちのものづくりが何か世の中で役立つといいなというのがあり、山の木を使うということで山を良くする“一役を担う”ことをしたいと思った。

息子が、「お父さんがやっていることが山を良くしていくことに繋がってる」と思ってくれたら嬉しい。そうなったら、子どもたちもいろんな希望を持って、生きてることにワクワクしてくれるのでは。

「お父さんみたいになりたい」と思えるような社会になっていったらいいと思う。希望ですけどね。(周平さん)

写真



カフェ+ショップ「ヒトキ-人と木-」



「hitotoki」で制作したスツールを6つならべたところ



取材風景